

解 答

一

- 問1 a 計測 c 無難
問2 b にゅうねん d かな〔で〕
問3 ① アナウンス ② リハーサル
問4 I 工 II ア
問5 無秩序なものに秩序を与える
問6 喜〔怒哀〕樂 問7 ウ
問8 靴〔で〕音〔を出す〕 問9 工
問10 四十七人の部員 問11 工
問12 水 問13 人間の知恵 問14 奥田克久
問15 1 オ 2 工 3 ア 4 ウ 5 イ
問16 オ

二

- 問1 望〔ましい〕
問2 b ぞうきばやし c あんい
問3 ④ 問4 最初 煙に与 最後 、栄養
問5 偏った土 問6 ウ 問7 才
問8 無尽蔵 問9 逆
問10 ア 問11 ウ
問12 偏った土は見られない（養分のある、いい土が多い）
問13 イ 問14 工
問15 D イ E ア F ア G イ 問16 オ

解 説

記号選択肢（22題）とぬき出し（8題）の設問数が多いのが特徴です。文章も読み取りにくいものが題出される可能性が高いので、手際よく設問をこなしていく力が必要でしょう。文章を初見で読み取る段階で、速く正確につかめいれば、設問にとりかかっても処理の時間はさほどかかるはずです。逆に、おおざっぱに文を読んでいると、設問の処理に手間（何回も文にもどりながら）と時間がかかります。得点力を上げていくためには、難しい文章から逃げずに、堂々と文章にあたって、速く正確に読み取る力をつけていく練習をつむことが必要です。

一.

- 問1 (漢字の書き取り)
問2 (漢字の読み)
問3 (外来語) 難しい言葉ではなく、日常で用いられている言葉である。
問4 (副詞・接続語) Iには、接続語が入り、IIには、副詞がはいります。IIの副詞は、「たとえ」～「ても」という呼応の関係を見つけます。
問5 (ぬき出し) 楽器の「音を合わせる」様子を6行目で、「無秩序なものに秩序を与える人間が見せる慎重さは美しかった」と表現している。その部分から、「音程を合わせる」という内容にしづらこんで、答えを見つける。
問6 (知識・四字熟語) 空欄の後の文の内容「～をあらわにする人間的な感情」とあることから、「喜怒哀樂」と判断します。
問7 (記号選択・気持ち) 「藤尾さん」の何が「美しい」のかを考えます。楽器の音程を慎重に合わせている姿が美しいのですね。2行目にあるように、「～という仕事をしているときの藤尾の顔は澄んでいた」、「こういう時の藤尾さんの顔に憧れた」、「女の子に憧れるという気持ちとはぜんぜん違う」、などから男も女も関係ないとわかります。克久は、藤尾さんの、音あわせをする洗練された美しい様子に感動をしているのです。
問8 (空所補充・適語) 克久が、演奏会用の靴を忘れてるのを見て、藤尾さんが言った言葉の意味を考えます。「靴を間違えていても、靴で演奏するわけではないので、関係ない」という意味になりますね。したがって、「靴で音を出す」という答えになります。
問9 (空所補充・記号・適語) 「泣いている」という言葉から、どんな失敗だったを判断します。後に影響をおよぼすような重大な失敗です。
問10 (ぬき出し・指示示す語) 誰が誰に向かって言っている言葉なのかを判断します。森勉（指揮者）が克久たち（楽

団員)に向かっていっているのですね。

問11(空所補充・記号・適語)克久が並んで座っている両親を見て、どう感じたかを考えます。「意外だった」「二人が初めて並んで座っているのを見たような気がした」と、同級生のデートにたとえているあたりから「若々しかっ」と判断します。

問12(空所補充・適語・慣用句)空欄の後の言葉に着目しましょう。演奏の会場がいいんと静まりかえっているようすをあらわしています。「水を打ったよう」という慣用句を用います。

問13(ぬき出し・同内容)線6の2行後に、「それが参与ということだ」とあります。そこから、問い合わせの「偉大なものに参与していた」とはどういうことかが明らかになります。今、音楽の演奏をしている、その場、「人間の知恵そのものの中」に克久自身が「存在させられていた」こと、が「参与ということ」になります。

問14(ぬき出し・該当の語)「上履きを履いて」から判断できますね。

問15(記号選択・適文)1・2・3が、指揮者からの指示を待っているという前提で、4・5は、指揮者からの指示無しでもう一発を打つという内容になっています。

問16(記号選択・心情)「妙にしらけた気持ち」は、この場面での克久の心境を物語っています。「しらけた」原因は、克久自身の感動にあると考えることもできます。「人間の知恵そのもの」、「ひとつの重要な仕事」、「おごそか」、「敬虔に参与すべき何か」、などの表現から、克久はかなり高いレベルの意識の高まりと感動を経験した直後だということがわかります。一方、音楽のことをよく知らない父親はあくまでも普通に克久に言葉を発しています。したがって、父親には全く罪はないのですが、高いレベルのただ中にいる克久にとっては、父親の言葉は平凡きわまりない、むしろ克久にとっての聖域をふみにじられるような思いを感じ、「傷つけられてしまっている」のでしょうか。

二.

問3(記号選択・脱文)「肥料をやったら～枯れるかもしれません」の主語を確定してみましょう。段落の具体的な内容も確認しながら見つけると、「(百年も生きているような)木は」となりますね。よって、4段落の後となります。

問4(ぬき出し・該当の内容)線1の部分の前の行を読み取ります。雑草の役割、何のために田んぼに雑草を生やしているのかも含めて考えると、「畑に与えすぎた堆肥の成分、栄養」、つまり「土の中のもの」を吸い込んでもらうためだとわかりますね。

問5(ぬき出し・適語)線2の一つ前の形式段落を読むと、「いろんな雑草が生えていてこそ、土として望ましい姿になります。」とあります。したがって、決まった草しか生えず、作物のできの悪い杉の下の土は、「望ましくない土」、つまり「偏った土」だということがわかります。

問6(記号選択・内容正誤)意味段落をつかむ読み取りが必要です。「雑草の力」についての説明と「根粒菌」についての特徴の説明と読み分けをします。ここでは、「雑草の力」と「根粒菌がたくさんつく」話は、つながりません。

問7(記号選択・内容理解)「根粒菌」の働きを読み取ることが必要ですね。土の養分の状態が良いと、「根粒菌は働くなくてもよくなる」という説明になっています。つまり、「土の養分のバランスがとれている」ことになるので、それが正しいと判断します。

問8(ぬき出し・語句の意味用法)ただ語句を単語としてさがそうとするのではなく、文の中の使い方、意味をつかみながら考えた方が正確に言葉をつかめます。

問9(空所補充・適語)文の内容から、ある自然農法の団体の農場のしている大きな間違いを読み取ります。土が温かくないとダメなのに、温度を下げているということなので、「逆」のことをしていると考えます。

問10(記号選択・適語)作物を作るうえで、土にとって重要な成分は、窒素、リン酸、カリであるという「科学の常識」がありますが、実際は山の土にはそれらの成分はほとんどなく、それでも草木が元気に育っているという説明ですね。したがって、「科学の常識」が実は違うのではないかと言っていると考えます。

問11(記号選択・内容理解)ここで言う「悪さ」とは、自然の土の良い状態に対してする「悪さ」と考えます。したがって、自然の良いバランスをくずしてしまうこととして、「肥料を畑に撒く」ことと考えられます。

問12(記述・適語・十五字)空欄Cのある形式段落の内容を読み取ります。ミミズがいるということは、未分解の有機物が土の中に多いということですね。つまり、その土はバランスがよくなっていることです。そして文章では、山にはミミズがいないと説明されています。したがって、山にはそれほど「バランスのよくないう土はない」ということになりますね。つまり、「偏った土が見られない」という内容で答を展開できることになります。

問13(記号・慣用句の意味)

問14(記号・ことばのきまり)

問15(記号選択・内容理解)「D(無)からE(有)を生む」となるのは、直前の行の「無肥料でもできる」から考えることができます。Fは、文章に、「未分解有機物」が発酵するには「窒素が必要です」とあるので、「有効な窒素」とするのが、よいでしょう。Gは、空欄を含む文で、「養分は作物が利用できない無効な状態のままで」とあてはめると意味が通じます。「利用できない」のですから、「無効」ですね。

問16(記号選択・内容理解)本来、そのままで良い状態にある自然の土に、人間が肥料を加えることによって、バランスを欠いた悪い状態の土にしてしまっているという点を矛盾と指摘しています。土における微生物の役割を正確に読み取れていれば、「矛盾」の意味がつかめるはずです。